

令和7年度事業評価に関する提言への対応

事業名	有害鳥獣対策事業
委員会評価	<p>おおむね適正である</p> <p>本事業は、有害鳥獣による農作物被害や生活環境への影響といった地域課題に対し、現場の実状に即した対策を継続的に講じており、一定の成果が見られる。また、地域住民との連携を重視し、市民参画型の取り組みとして定着しつつある点も評価できる。捕獲数の目標達成や、防護柵・センサーなどの新技術導入など、費用対効果を意識した工夫も認められる。一方で、猟師の高齢化や担い手不足、捕獲後の処理体制など、構造的な課題は依然として残されており、これらへの戦略的対応が今後の重要な課題である。総合的に見て、本事業は南あわじ市の中長期的なビジョンや地域振興計画に合致した、実効性の高い事業であると評価される。今後は、成果の可視化と課題の継続的検証を通じて、より持続可能で効果的な体制整備が期待される。</p>
事業に係る提言	<p>改善し継続する</p> <p>本事業は、農作物被害の軽減や地域住民との連携といった面で一定の成果が見られ、地域課題に即した実効性ある取り組みとして評価される。一方で、猟師の高齢化や担い手不足、捕獲後の処理体制など、継続的な課題も明らかになっている。</p> <p>今後は、事業の枠組みは維持しつつ、担い手の確保・育成支援や、ICT技術のさらなる導入、制度面での見直し等の改善を加えながら継続することが望ましい。とくに、成果の「見える化」を通じて地域の理解と協力を促進し、より効果的で持続可能な体制の構築が必要である。</p>
執行部回答	<p><u>1. 事業評価の受け止めについて</u></p> <p>本事業につきましては、「おおむね適正である」との評価をいただき、農作物被害の軽減や地域住民との連携、市民参画型事業として一定の成果が認められたものと受け止めております。</p> <p>地域によって被害状況や課題は様々であります。引き続き有害鳥獣による被害の拡大防止を重要な地域課題として位置づけ、地域の実情やニーズに即した支援メニューの検討および対策の推進に努めてまいります。</p> <p><u>2. 改善に向けた取組方針</u></p> <p>捕獲従事者の高齢化や担い手不足が顕著となる中、鳥獣対策の持続性や実行性の確保が喫緊の課題であると認識しております。</p> <p>その中で、評価及び提言を踏まえ、事業の基本的な枠組みは維持し</p>

つつ、次の点について改善を加えながら事業を継続してまいります。

【主な改善の方向性】

- ・担い手確保及び育成支援の充実
- ・集落全体で一体となった「集落ぐるみでの鳥獣対策」の推進
- ・ICT技術を活用した負担軽減および捕獲体制の効率化
- ・捕獲後の処理体制の検証並びに関係機関との連携強化

3. 持続可能な体制整備

有害鳥獣対策を安定的かつ継続的に実施していくため、担い手の確保・育成をはじめ、捕獲体制や捕獲後の処理体制について総合的に検証し、持続可能な仕組みづくりに取り組んでまいります。

あわせて、関係団体や地域住民との連携を一層強化し、現場の負担軽減と効率的な運用を図りながら、実現可能性や効果を検証し、中長期的な視点に立った有害鳥獣対策体制の整備を進めてまいります。